

令和4年度 名寄周辺モデル地域

第3回 物流ワーキングチーム

「共同輸送・中継輸送実装研究会（仮）」の設立について



協議体の概要について（案）

令和5年度

「共同輸送・中継輸送実装研究会（仮）」 運営スキーム

研究会の目的：道北地域における物流システムの維持・効率化に向けて、名寄周辺を拠点とした共同輸送・中継輸送の実施に関する研究を行う

研究会メンバー：名寄商工会議所、道北地域ロジスティクス総合研究協議会、名寄市
北海道運輸局、旭川運輸支局、北海道開発局、旭川開発建設部、北海道総合政策部、上川総合振興局
実証実験実施主体事業者及びその他事業者（物流事業者等）

主な活動内容

1. 研究会会議の開催（年数回）
2. 研究会メンバーの拡充
3. 実証実験対応
 - ・参加メンバーの物流事業実態、ニーズ把握
 - ・拠点施設の検討
 - ・マッチングの検討
 - ・結果とりまとめ
 - ・幹事社の選出
4. マッチングシステムの研究
 - 道北地域に最適なマッチングシステム（求貨・求車システム等）の研究
5. 共同輸送・中継輸送の本運用に向けた課題検討
6. 道北の産業・社会情勢を踏まえた取組の検討
 - 牛乳、乳製品輸送、ふるさと納税返礼品輸送等の可能性、方法等を検討

※会費無料

～実証実験実施チーム～

設置目的：持続可能な物流システム構築に向けた実証実験の実施
活動内容：・実証実験対応（運賃、責任割合調整）
・実証実験の実施

メンバー：公募による物流事業者等

令和6年度以降

「道北地域物流効率化推進協議会（仮）」 運営スキーム

協議会の目的：道北地域における物流システムの維持・効率化に向けて、名寄周辺を拠点とした共同輸送・中継輸送の実施に関するサポートを行う

協議会メンバー：同上

主な活動内容

1. 協議会会議の開催（年数回）
2. 協議会メンバー入退会管理
3. 協議会メンバー拡充
4. 求貨・求車システム導入可能性検討
5. 道北の産業・社会情勢を踏まえた取組の検討
6. 中継輸送拠点の検討

～社会実装実施チーム～

設置目的：持続可能な物流システムの運用
活動内容：共同輸送・中継輸送の本運用
・幹事社の選出
・参加メンバーの物流事業実態・ニーズ把握
・マッチングの検討（求貨・求車システム導入）
・運賃・責任割合、費用負担調整

メンバー：物流事業者等

共同輸送・中継輸送の本運用に向けた流れ

令和4年度

令和5年度

令和6年度以降

物流関連事業者対象アンケート調査

研究会構成メンバーの選定

選定事業者への研究会参加
打診・調整

研究会メンバーの物流事業実態把握（輸送品目、輸送方面、輸送量、輸送方法等）

研究会運営に向けた準備

令和5年2月

共同輸送・中継輸送実装研究会（仮称）設立

【事業内容】

- 研究会メンバーの拡充
- 実証実験対応
 - 参加メンバーの物流事業実態、ニーズ把握・拠点施設の検討
 - マッチングの検討・結果とりまとめ
 - 幹事社の選出
- マッチングシステムの研究
- 共同輸送・中継輸送の本運用に向けた課題検討
- 道北の産業・社会情勢を踏まえた取組

実証実験に向けた必要なデータの収集

実証実験に向けたスキームの検討

実証実験

共同輸送・中継輸送の本運用に向けた課題の整理・検討

道北地域物流効率化推進協議会（仮称）設立

名寄周辺を拠点とした共同輸送・中継輸送の本運用

- 道北地域の物流に関連する事業者
- 名寄周辺を拠点とした物流効率化に興味のある事業者

- 研究会規約策定
- 事務局連絡調整
- 資料・会場準備等

▶ 物流拠点を有しない
中小の物流事業者に着目

R5年度は共同輸送・中継輸送の実装を目指し、
実証実験を通じた検討を研究会で実施

共同輸送・中継輸送に係る協議体の必要性和実証実験のイメージ

中継輸送・共同輸送を実施するための障害

- ➡ 民間事業者間では信頼関係の構築が難しい、企業間の営業・機密情報等の共有が困難 等
- ➡ 事業者が安心して参加出来る枠組みがない

札幌地区トラック協会の声

- 近年は、労務管理を厳守するため、大手の物流事業者などを中心に中継輸送などを行っているが、中小事業者の多くは、設備投資に係る費用や人的負担、他企業との連携の難しさなどから、なかなか中継輸送ができない状況になっている。
- 特に、他企業との連携については、信頼関係がないと連携という話にならず、施設があっても機能しない可能性が高いと考えている。

ヒアリングを行った事業者の声

- 名寄に中継拠点が出来た場合、活用は大いに検討する。
- 道北圏域の物流システム効率化検討の必要性を、強く感じており、名寄の物流拠点化に非常に興味がある。協議体に参加を希望する。

共同輸送の取り組みを促進

- 道北方面の物流サービス低下を、研究会の取り組みで改善
- 実証実験により、**成功事例をひとつつくる**ことで、道北地域の物流事業者へ共同輸送の取り組みを広げていく

事業者が安心して取り組みに参加するためには、民間だけではなく、行政や学識経験者、地域が一丸となった枠組みとして、**研究会の立ち上げと実証実験が必要**

実証実験の成功により…

実証実験のイメージ

物流課題

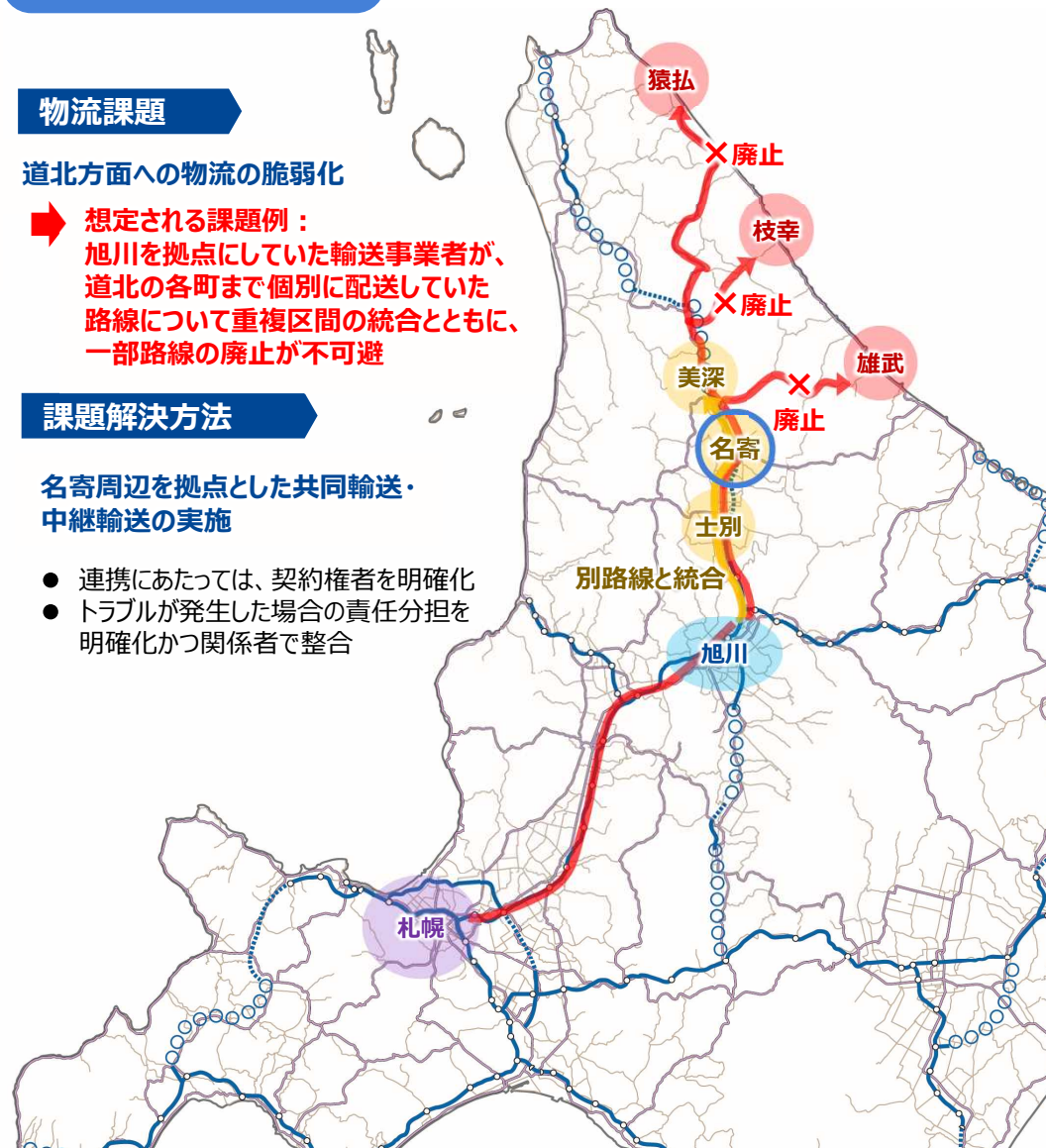
道北方面への物流の脆弱化

- ➡ 想定される課題例：
旭川を拠点にしていた輸送事業者が、道北の各町まで個別に配送していた路線について重複区間の統合とともに、一部路線の廃止が不可避

課題解決方法

名寄周辺を拠点とした共同輸送・中継輸送の実施

- 連携にあたっては、契約権者を明確化
- トラブルが発生した場合の責任分担を明確化かつ関係者で整合



想定される課題例による配送路線への影響（イメージ）

既存の求貨求車システムの例

エージェント型

仲介業者が間に入ってニーズにあったサービス、運送会社を紹介するシステム。求貨求車に人的リソースを割く必要がなく、専門家に任せるため成約率が高いのが特徴。

提供者	概要	メリット	デメリット	利用で発生する料金
A社	全国49か所・協力輸送会社 13,000社のネットワークを活用し、 空車情報を提供、専属車両も保有	● 利用料金無料 ● アジャスターが仲介するため、イレギュラーなニーズに対応しやすい ● 配送可能貨物のタイプが豊富	● 依頼者が自分で荷物・車両を探すことができない ● 専属事業者に優先的に紹介	運送業務にかかる料金は、運営会社が請求分・支払分をまとめて月1回決済
B社	配車のデジタル化による クラウド型物流DXシステム	● スポット配送・緊急配送ニーズに対応 ● web対応のため時間を選ばず利用可能 ● 物流データを可視化	● 貨物保険の付帯なし ● 運営側の権限が大きく、契約・導入までの手順が煩雑	無料の業務調査後、物流規模・利用機能により、運営会社側が都度見積もり

掲示板型

荷主と運送会社がサイトの掲示板などに必要な情報と希望を登録し、直接交渉するシステム。細かな条件が合わず、契約に至らないケースも。

提供者	概要	メリット	デメリット	利用で発生する料金
C社	月平均14万件以上が掲載される 国内最大級の求貨求車サービス	● 初期投資不要 ● 20年以上の実績・情報量の多さ ● 案件の条件を細かく設定可能 ● スタッフサポートあり	● 固定の利用料が発生 ● 会員同士の直接交渉がトラブルとなったり、細かい条件が折り合わない可能性	サービス利用料：6,000円/月 運賃全額保証：5,000円/月～
D社	組合介在型のプラットフォーム	● スマホ専用アプリで利用可能 ● 過去の実績や利用履歴等のデータを活用したマッチング ● 組合制のため新規取引でも支払確実	● 固定の利用料が発生 ● 組合加入事業者のみ利用可能	1IDあたり 1,000円/月 組合会費 15,000円/月

シェアリングエコノミー/マッチング型

荷主と運送会社が直接交渉を行うが、アプリ等を使うことで、よりマッチングしやすい仕組みを提供するサービス。

提供者	概要	メリット	デメリット	利用で発生する料金
E社	スポット貨物と空き車両の マッチングプラットフォーム	● 利用料金無料 ● モバイルアプリで、配送状況の確認や勤怠管理、日報報告が可能 ● シンプルでわかりやすいシステムが利用初心者に人気	● 運営側による審査あり	運送業務にかかる料金は、運営会社が請求分・支払分をまとめて月1回決済
F社	一般企業ともマッチング可能なサイト	● 利用料金無料 ● 最低運賃保証あり ● 姉妹サイトに登録されている一般企業ともマッチング可能	● 運営側による審査あり ● 営業所単位での入会が必要	月額利用料無料 追加ID2,000円 成約手数料(運賃の5～10%)